

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

NPO法人WACおばま

以前の活動	活動①財源:学校予算 予算	活動②財源WAC,民間助成 予算	活動③財源:水舎 予算	活動④財源:山村活性化事業 予算
名称	若狭東高校の環境学習	上根来里山再生プロジェクト	桐油の生産事業化	小浜市里山事業ネットワーク
対象課題	環境・社会教育	里山再生、地域創生	経済性・持続性の確保	情報共有、意識啓発
活動内容	間伐材利用の環境学習の一環から、天然性ニス(撥水剤)としてアブラギリ(桐油)の研究を始める。	無住化した集落「上根来」で元住民団体と協働で取り組む里山再生活動。地域に群生しているアブラギリに注目。	生産事業化に向けた主体者として、NPO法人若狭くらしに水舎が桐油事業を引き継ぐ。	小浜市の将来的な里山ビジョン「小浜市里山創造計画」を策定。行動基本計画の中にアブラギリの活用が明言された。
活動成果	実験によりアブラギリの有効利用の可能性が実証された。	上根来地区を中心とする研究環境が確立した。	事業化に向けた課題を整理し、解決手段を実証した。	協議会が発足され、不定期ではあるが会議にてアブラギリの取り組み状況を共有。また生産事業化にかかる試験的な取り組みに対する支援を行っている。
連携先	若狭東高校	NPO法人WACおばま	NPO法人若狭くらしに水舎	小浜市里山創造協議会
経緯	若狭東高校で行われていた間伐材利用の環境学習において、作成した机や椅子に使う天然性ニスを探していた。結果、この地方で古くは栽培されいまは厄介者となっていたアブラギリに着目し、その活用の検討を始めた。一方無住化した集落「上根来」コミュニティー(近隣にまとまって定住し転居前の地域社会を維持している)と接触していた「WACおばま」は地域再生お企図しており、当地に自生するアブラギリの活用を若狭東高校と協働して推進する体制を構築した。			

鍵となった出来事:ニホンアブラギリはトウダイグサ科の落葉高木であり、種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コロビ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題の様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化などを通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。

NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎

現在の活動	活動1財源: 予算	活動2財源: 予算	活動3財源: 予算	活動4財源: 予算
名称	アブラギリの桐油の製品化(搾油・塗布実験)	アブラギリによるキノコの原木栽培	アブラギリの葉を用いた葉寿司の商品開発	アブラギリの葉の摘み取り卸し
対象課題	アブラギリの桐油を地域発の商品とする。	アブラギリを原木として地域のキノコ栽培を促進する。	アブラギリの葉を用いた葉寿司を地域発の商品とする。	アブラギリの葉の生産地化
活動内容	上根来地区の里山再生プロジェクトと連携した若狭東高校のアブラギリからの桐油の搾油を発展させ、文化財修復用の国産桐油の商品化研究を実施。	アブラギリを原木とするキノコの育成を検証。	先進地の永平寺町で生産されているアブラギリの葉を用いた鱒鮠を参考に、福井県特産のへしこの葉寿司を開発、商品化した。	福井市殿下地区で「葉寿司」を生産販売している業者に対して、若狭地方からアブラギリの葉を卸して買い取ってもらう。
活動成果	品質調査に使う標準サンプルを制作。市販品比較用データ等を得る。提供サンプルの試用に対し、概ね良好な反応が集まってきている。	アブラギリを原木とするキノコの発生状況は予想以上。キノコ栽培への活用展開の可能性を確認。	商品化レベルまでできていると、レストラン業者が評価。国際里山会議にて「里山弁当」として提供。へしことアブラギリとして海と山の出会いの食品ブランド化の可能性。	小浜市矢代の地区住民がアブラギリの葉を摘み取り、福井市殿下地区の業者へ送る仕組みを試験的に実施。
連携先	若狭東高校産業科 上根来地区 搾油専門家 小浜市里山創造協議会 小浜市農水課 小浜市文化課 文化財修復業者	若狭東高校産業科 上根来地区 福井県林業課 小浜市内レストラン業者 キノコ栽培者	若狭東高校生活科 上根来地区 永平寺町先進地区 小浜市内水産高校 小浜市内ホテル業者 小浜市内食品開発グループ	小浜市矢代地区 福井市殿下地区
評価と課題	①市場・需要開拓、②相場設定・生産の組織化、③搾油設備の内製化、等が今後の課題	キノコ栽培の希望者にはノウハウを提供できるが、生産者の確保が課題	ブランド化して販売システムを整備することが課題	作業効率や生産販売で取り扱うスケールとの調整が課題